

2001年 Routing & Switching 4回目

(過去3回は新宿で惨敗)

<4月1日(日)>

今日は出発である。21:10 成田発だ。朝から準備を始めたが、持参する技術書がやたらと多くて大変だ。持っていかに後悔はしたくないので、なんでも持っていくことにした。何とか準備が整って、いざ出発。げげっ、スーツケースが重い。ちょっと調子に乗りすぎたかと思ったが、そのままにすることにした。なお、季節は正反対なので服装が難しい。ただ、今回は幸運なことに日本では春でシドニーでは秋なのでちょうどいいだろう。

私が住む藤が丘からは、T-CAT(水天宮前)まで田園都市線で乗り換え無しで行けるので大変便利だ。T-CATまで約1時間で到着。ふう。

今回はJAL便を利用するため、T-CATで搭乗手続きができる。早めにチェックインができるので、EXITシートの確保に有利だ。EXITシートというのは、非常口の所の席のことで、足を伸ばせるので、私は可能であればいつもEXITシートをリクエストすることになっている。無事にEXITシートを確保して一安心。

なおスーツケースもここで預けられるが、成田でさらに詰め込むものがあるので、預けなかった。また、何と入国審査もできるのだ。成田だと長時間並ばされるが、ここでは約10秒で終了だ。あとはリムジンバスで成田まで行くだけ。楽チン楽チン。約1時間で到着。

この時点で17時くらい。同行するNさんとは「出発の3時間前に集合」と約束していたので、買い物を済ますことにした。持ち込むノートPCのACアダプタは200V対応なのでシドニーでも使用できるが、勉強のためにCD-ROMも必要なので、CD-ROMドライブを持ち込まないといけない。ところがこれのACアダプタが100Vのみしか使えない。なので変圧器を買わねばならないのだ。「領収書があれば会社で落ちるかなぁ」と思いながら購入する。変圧器って重いなぁ。。

早めに荷物を預けることにして、JALのカウンタに行く。荷物が重いので何か文句言われるかなぁと心配していると、カウンタのねえちゃんが重量を見て

「げっ」

と素の表情で驚いている。

「お客様、荷物が30Kgございます。本来であれば超過の料金を頂くところですが、今回だけはそのまま結構です。次回から気をつけて下さい。」

とのこと。あー、よかった。規定では20Kg未満だ。

そうこうしているうちにNさん到着。2人で晩飯を食べることにした。私は勝負に勝つ、とカツカレーを食べる。当然である。私はそういうことにはこだわる性格である。Nさんはペンネなどを食べていた。

おしゃれた。さすが若者である。

出国手続きは、T-CAT でもらった「手続き済み」の紙を提示して素通りだ。並んでいるやつらざまあみる。Nさんも並んでいる。ところが、ところが、何と出国手続き待ちの列の中にキムタクがいたそうさ。Nさんは

「並んでいて良かった」

などとほざいていた。

今回の出張は CCIE というネットワーク業界で最難関と言われる資格試験受験のためである。実技試験なのだが、国内では予約が難しく、比較的早く予約ができるシドニーで受験することにしたのだ。会社からは特に何も言われていないが、やはりプレッシャーである。当然だが一発で決めたい。何度も行きたくない。などとNさんと話などしているうちにフライトの時間だ。

機内はほぼ満席だ。到着は朝なので何とか眠って行きたいなあと思っていたのであるが、うつらうつら、寝たのかどうかよくわからない。友人の医者から処方してもらったハルシオンも飲んだが、効いたかどうかわからない。とか思っているうちにシドニーに 07:25 到着。日本より1時間進んでいる。

入国審査も問題なし。問題があったら大変だ。何か質問されたが恥ずかしいことに聞き取れず、首を傾げていると、パスできた。まあいいだろう。

ちなみにNさんは英語ペラペラだ。到着してすぐに

「地図を入手してきます」

とか言って、うろちょろしている。さすがだ。ほとんどネイティブスピーカーだ。とにかくホテルに向かうことにする。

< 4月2日(月) >

ホテルまでタクシーで約30分。chatswood という街にある。試験会場にも近いはずだ。着いてみるとすごく高級なホテルだ。

「朝からチェックインできるかなあ」

とか思ってフロントに行くと、何か払えとか言っている。よくよく聞いてみると、私たちは一泊間違えて、前日から予約を入れていたようだ。なので、チェックインできることはできるのだが、その”寝ていない”一泊分のお金を払えと言っているようだ。問題無いので、払う旨を伝えて無事にチェックイン終了。

部屋は大変広い。

- ・キングサイズのベッドルーム
- ・バスルーム
- ・洗濯ルーム（と呼ぶのか知らないが）

がそれぞれ2部屋ずつあって、リビングとダイニングもある。冷蔵庫や電子レンジ、洗濯機や乾燥機など、生活に必要なものは全て揃っていて、食器類も完備されている。ベランダまである。チェックアウトするまでに、一度も入らなかった部屋が2つほどあるくらいだ。長期のステイをしている人も多いようだ。

とにかくフライトで疲れているのでシャワーを浴びて寝ることにした。2～3時間して起きて、Nさんと一緒に試験会場の場所を確認しておくことにした。試験会場は cisco 社である。ホテルから歩いて約10分のところにあった。安心、安心。

なお、試験は4, 5日（水・木）である。フライトでの疲れを考慮して、少し前から現地入りしたのである。

変圧器用の電源コネクターの用意を忘れていたので、ホテルの目の前のショッピングセンターに買いに行くことにした。いろいろ回ったが、無事発見、購入した。Nさんは歯ブラシなどを購入していた。

腹も減ったので何か食べようと思ったが、意外なことに街にはレストランがほとんどない。仕方ないのでショッピングセンターの中で食べることにした。勝負に勝つ、ということでカツ丼を食べることにしたが、これがひどい。何か甘いたれがかかっている、なぜか千切りしたキャベツがのっている。カツ丼としてはとても食べたものではないが、別の食べ物だと思えば食べれないこともない。Nさんは寿司など食べていた。Nさん曰く

「いろいろ海外でひどい食べ物を見たけど、そのカツ丼はひどい。間違いなくワーストですよ。」

と言っていた。

今日は疲れもあるので勉強するつもりはあまり無い。むしろ、今日は何もせずに、明日一日集中して勉強した方がいいだろう。

また、会社へモバイルアクセスできることを確認した。ちなみにオーストラリアのPBXは、0発信しても、「ツー音」が消えない。日本の場合は、0発信したらその時点で無音になる。要するに、0発信したあとで、ツー音を無視してダイヤル発信しなければならないのだ。そのための追加コマンド(ATコマンド)をダイヤルアップのプロパティに設定して無事接続完了。ふう。いきなりメールが500通位飛び込んでくる。95%以上は仕事のメーリングリストだ。ダウンロードに1時間ほどかかってしまう。いくら国際電話代がかかるのだろうか。不安だ。

夕食はホテルのレストランで、と思っていたらホテルにはレストランが無い。recommend のお店が数

点書いてある。その中で「very highly recommend」となっているタイ料理のお店に行くことにした。肉料理を食べたが味はあんなもんだらう。悪くは無いが香辛料が効いていて汗が噴き出す。男2人の食事は情けないぞ。

< 4月3日(火) >

今日はホテルで終日勉強だ。どこにも行かずにずっと勉強だ。いろんな思いが頭を駆け巡る。合格したい。。。

なお、今日の夕食は昨日とは違うレストランで、鶏肉などを食べたが、これがまずいしかたい。野菜もまずい。最悪。

< 4月4日(水) >

よし、今日は試験第1日目。頑張るぞ。試験は2日かけて行われる。内容については多言してはならないことになっているのでご容赦願いたい。公式に公開されている中でお話すると、試験は実技であり、ラックに搭載された router や switch などのネットワーク機器を使用して、課題に出された通りのネットワークを構築していく内容だ。1日目を終了した時点で採点が行われ、2日目に進めるかどうかが決まる。2日目はさらに課題が準備され、午前中で再び採点される。その時点でネットワークの構築が完了しているはずだ。もし、ここまでパスできているならば、最後の関門であるトラブルシューティングに進むことができる。この課題はプロクタが意図的にネットワークにトラブルを仕掛けてそれを的確に解決していかなければならない。例えば設定が間違っていたり、ケーブルの結線が変更されていたり、様々なトラップが仕掛けられている。概して言うと、とても難しい試験だ。昨今ネットワーク技術者の市場での人気が高まり、この CCIE という資格も注目されているが、いくら試験を受けても合格がままならないので、日本では200人くらいしか取得者がいない。

Nさんと試験会場まで歩いていく。受付を済ませて待っていると緊張してきた。受験者は全部で6名。日本から私たちが2名で、韓国から2名、米国からシスコの社員が1名、あとはオーストラリアの某企業から1名だ。

試験開始前にブリーフィングが行われる。試験に関する諸注意の説明だ。英語なのでよくわからん。まあ、日本で受験した時と同じだろう。気にしないことにした。ところが、あとでNさんに聞くと、1日目の点数が45点満点中で20点以下しか取れないと、向こう半年間は次の試験を受けることができないという新しいルールが追加されたらしい。なお、1日目の合格ラインは30点だ。実際、20点取るのも難しい。困ったなあ。。。

とにかく試験開始。内容はやはり難しい。それについては触れる事ができないので割愛したい。

試験中、プロクタへの質問は許されている。課題は曖昧な書き方を含んでいるので、解釈の仕方を時々問い合わせないと行けないこともある。もちろん英語でだ。ちなみにオーストラリアでは「エイ」と「アイ」と発音する。いわゆるイギリス英語だ。例えば Maybe は「マイビー」と発音する。聞き取りにくいぞ。

余談だが、かなり昔のことで、スナックでカラオケなどを歌っていたときに、他のグループの若者が「Maybe xxxxx」とか歌詞のある歌を歌っていたが、そのにいちゃんが「マイビー」と発音していた。多分、ローマ字読みした結果だろうが、

「お前はイギリス人か！」

と腹がよじれるほど笑った記憶がある。

そうこうしている内に昼飯だ。試験中を通して他の受験者との会話は禁止されている。カフェテリアみたいところでプロクタ2人の監視の中で昼食を取らされる。まずい。変なサンドウィッチの様なものだが、とにかくまずい。試験内容以外の雑談をプロクタの前ですることは問題はないので、日本語でNさんと話をしようとする、プロクタの野郎、

「お前ら、日本語で話をするな。俺が、お前らが何を話しているか理解できないだろう。」

とチェックを入れてきた。完璧なディフェンスだ。やられた。

プロクタが

「どうしてわざわざシドニーまで受験しに来るんだ？ 日本にも受験設備があるだろう。」

と聞いてきたので、Nさんが流暢な英語で

「日本では受験するのに数ヶ月も待たされる。また、時差があまり無いのでここで受験することにした。」

と答えた。韓国でも同様らしい。シスコ本社（シリコンバレー）でも同様で、世界的に予約が空いているシドニーに来ているようだ。いずれにしろ、英会話は苦手なので、外人の相手はNさんに任せて、下を向いてやり過ごすことにした。とにかく目が合うと話しかけてくるので油断もスキもあったもんじゃない。とにかく話しかけられないように気をつけた。（全く情けない話だが。。）

昼食後、試験再開。夕方までみっちりやって、時間終了。なお採点の結果は明日の朝に知らされる。もし不合格であれば、2日目の課題を見ることもなく帰らされることになる。帰らされるのはとても悲しいので、何とか2日目には進みたいぞ。

手応えとしては微妙なところだ。20点の最低限のラインはクリアできたと思うが、合格ラインである30点はどうかだろうか。とても不安なまま、Nさんと夕食を食べる。思い出せば思い出すほど間違い箇所が見つかり、自己嫌悪に陥っていく。あー、やだやだ。Nさんは20点も厳しいかもしれないと言っている。何度も来たくないぞ。合格したい。

今日の夕食は再びタイ料理屋でカレーだ。これまたこんなもんだらう。

< 4月5日(木) >

試験会場到着。順番に呼ばれて合否が言い渡される。なお、簡単に間違い箇所の確認も行われる。具体的にどう間違えたのかは教えてくれない。

Nさんが先に呼ばれた。約5分後、部屋から出てきたNさんは、ダメだったと合図してそのままエレベーターに乗って階下へと下っていった。後でわかったが、不合格者がお互いに次回のために情報交換をすることを恐れて、すぐにビルから出ると指示がある。大変厳しい。

いよいよ私の番だ。プロクタが

「悪いニュースと良いニュースがある。まず、悪い方だが、残念ながら30点以下しか取れていない。次に良い方だが20点以上取れている。次回の受験の予約をすぐに行う事ができる。」

と聞き取りやすい英語で話してくれた。目の前が真っ暗だ。東京に単身赴任で出てきて以来、ほとんど全ての土日をこの勉強に費やしてきた。もちろん受験費用や渡航費用は会社持ちだが、大変申し訳ない。

人生を変えるつもりでこの資格試験に挑んできた。あれほど頑張ってもダメなのか。。。。

間違い箇所の確認があったが、特に採点ミスも見つからずに不合格決定。最悪。。。。

すぐにビルから退去せよ、という指令で呆然とエレベーターで帰る。Nさんが階下で待っていると思ったが、探してもいない。あれ、ホテルに帰ったのかな、と思って、失意のどん底の中、ホテルまで戻ったがNさんはいなかった。

実はNさんは私が不合格になるかどうかわからなかったが、とりあえず1階のロビーで待っていていたのだが、お互いに発見できずに行き違いしてしまったようだ。

そうとも知らない私は、目の前が真っ暗になりながらも、せっかくなので街にでることにした。電車にのってシドニーの中心街まで行き、ぶらぶらしたり、水族館で心を癒したりした。水族館では日本では見たこともないような変な魚もいる。日本の水族館ほどきれいではないが、そこそこ楽しめた。

街は安全な雰囲気だ。身の危険を感じることはない。駅でも職員の方々は親切でプラットフォームがわからなかったりしたが、丁寧に教えてくれた。この街に住んでもいいなあと思ったりもした。日本人も数多く見かける。コギャルみたいなものもいるぞ。茶髪の日本人(多分)の高校生の男といちゃいちゃしている。全くどこにでもバカはいるものである。で、昼過ぎにホテルに戻った。その後はふて寝した。

夕方になってNさんの部屋に電話したら、Nさんが戻っていたのでいろんな話をした。

また、速攻で次回の予約をシドニーに入れた。やる気満々である。夕食にベトナム料理を食べながら、次回での雪辱を心に誓った。俺は絶対にやってやるぞ。

< 4月6日(金) >

帰国日だ。ホテルのチェックアウトは特に問題なし。通信料は10万円弱ほどかかったが、業務利用なので問題ないだろう。朝の6時半にタクシーを呼んでいたのも、空港までスムーズに行けた。空港は日本人だらけだ。朝食に春巻きみたいなものを食べるが、まずい。味が無い。シドニー空港では春巻きを食べてはならない。マックの方が数倍マシだ。

空港の中で時計などを見て回る。私は CCIE に合格したらオメガスピードマスターを買うと決めている。欲しいなあと思いながら見たが、特に安いというわけでも無い。日本の方が安いだろう。

搭乗ゲートまで行くと、何やら騒いでいる。よく聞くと、霧の影響で2時間ほど出発が遅れるとのこと。あーあ、弱り目にたた目だ。

空港には韓国のサムスン電子が Web を見れるようにしている PC のブースが所々においてある。暇だったので HOTMAIL から数人にメールを出した。「試験に Fail した」と。情けない。「合格した」とメールしたいぞ。

帰国便の機内ではずっと勉強しながら帰ってきた。次回は5月14・15日だ。ゴールデンウィークは全て勉強に当てる決心をした。やってやるぞ。